株式会社コンサス

バルブは、配管内の流体の量・方向・圧力等の調整に不可欠な機器だ。日本には創業100年前後のバルブメーカーがひしめく。そうした中、平成生まれの後発メーカーであるコンサスは、巧みな戦略により、2023年に売り上げ・利益ともに過去最高を記録した。

代表取締役社長
土井靖士氏

バルブのニーズに、独自の存在価値で応える

㈱コンサスの設立は1989年（平成元）。あるバルブメーカーで商事部門の責任者だった土井啓介氏が興した。きっかけは、勤めていた会社が台湾向けに行っていた輸出事業をやめたことだった。

「啓介は私の父です。父は『輸出をやめたら、バルブを買ってもらっている台湾のメーカーさんに迷惑がかかる。私が事業を引き継ぎます』と、のれん分け的に独立したのです」（土井靖士社長）

商品の仕入れは勤務していた会社が全面支援してくれ、売り上げは順調に伸びた。手が足りなくなった頃、大学を卒業して生活用品メーカーに勤めていた息子の靖士氏を自社に呼び寄せた。だが靖士氏が入社した途端、バブル経済が崩壊。円高で輸出にブレーキがかかり、会社は赤字となってしまう。

メイド・ウィズ・ジャパンのバルブ輸入によって、日本市場への参入に成功

靖士氏は、前職ではトップセールスだったという。その能力と経験を生かし、生活用品の店舗販売を促進する仕事を見つけ、不足する収入を補填。当面の経営危機を回避した。

だが本業のバルブ輸出は、円高で低迷したまま展望が開けない。そこで考えたのは、円高で割安になった海外のバルブを輸入して日本で売ることだった。

「父は台湾でのバルブ販売で、現地のさまざまなメーカーさんに驚くほど顔が広かったのです。そうしたメーカーでバルブを作ってもらい、最終検査を当社でやれば、日本で売れるだろうと」

だが実際に現地メーカーへ発注してみると、品質・性能・納期などがどれも、思うレベルにはなかなか達しなかった。そこで1996年、台湾に自社工場を稼働。併せて現地メーカーのレベル向上にも努めた。例えば日本から加工用の装置や検査機を協力工場へ持ち込んで品質を向上させたり、国際規格のISO認証がいかに重要かを説いて取得の支援をしたりした。

こうした努力の結果、同社の台湾法人は経営陣から製造現場まで優秀な人材が育ち、現地協力メーカーのレベルも向上。同社の台湾工場製バルブが、日本市場で競争力を持つに至った。

「私たちの商品は、日本のものづくりの精神で作り上げた台湾製。つまり『Made in Japan』に匹敵する『Made with Japan in Taiwan』なのです」

日本で特殊継手を製造してニッチ市場を獲得し、台湾製標準品の拡売につなぐ

2003年、同社は地元大阪市内に工場を稼働させた。ただ、日本で標準品の生産を始めたわけではない。国内工場で作ったのは、受注生産の「特殊継手」だった。

「日本には創業100年前後のバルブメーカーさんが多数あります。そういう企業と同じ土俵で張り合う気はありませんでした」

バルブメーカーはバルブ以外に、管と管あるいは管と装置をつなぐ「継手」も作る。単純な接続なら標準品の継手でよいが、配管が複雑になると、特別な形状・サイズの「特殊継手」が必要になる。そのニーズは配管工事が具体化してから明らかになるため、短期間で調達せねばならない。同社はこのニッチな市場を攻めた。特殊であるため、短納期で的確なものを作ることで、価格が高くても買ってもらえた。比例するように、台湾工場で作っている標準品のバルブ・継手の注文も増えていった。

「国内工場の売り上げは全体の15%程度。でも特殊継手の注文が来たとき、お客さまへカタログを持参し『実は標準品も用意してます』と説明するのです。『すぐ納品できる？ それなら買う』と言ってもらうのがうちの狙いです」

展示会への出展

バルブも継手も、「あったらいいながここにある！」

2011年、靖士氏が社長に就任。会社はコロナ禍を含めさまざまな苦難を乗り越えながら、23年（令和5）に売り上げ・利益ともに過去最高を記録した。そのカギは何だったのか。

「当社は後発。販売ルートも商品もひと味違ってこそ生き残れます。お客さまが欲しいものを公平に買えるルートを構築し、バルブや継手は標準品に工夫を加えた使いやすいものも用意して、『あったらいいながここにある！』のキャッチフレーズで販売していきました」

ちなみにコロナ禍には計画休業を実施。交代で休んだ結果、皆が複数の部署を担当してマルチタスクに慣れ、引き継ぎのコミュニケーション力も磨けたという。社員には増えた休日に自分磨きを奨励し、ペン習字や料理の勉強にさえ費用を支給した。コロナ禍を経て、生産性と職務管理能力が上がったうえ、社員に愛社精神と向上心が生まれたことも業績好調につながったようだ。

本社（大阪市）

現在、同社商品のメインの販売窓口は大手通販サイトだが、同社のホームページで会員登録すると、過去に製作した特殊継手の図面や開発の背景情報を閲覧でき、新規受注につながっている。毎月の閲覧数は4万～5万回に上るという。

「当社は規模でなく質を追います。社員数は今、日本と台湾を合わせて70名ですが、私は社員一人ひとりに目を行き届かせて大切にしたいので、増やしても100名くらいまで。利益率を高め、皆が『この会社にいたら一生安心だ』と思えるようにするのが目標です」

会社概要

社長　土井靖士氏
創業　1989年（平成元）5月
資本金　40百万円
従業員数　70名
事業内容　ステンレス製バルブ・継手、特殊継手等の設計・製造・販売
所在地
〒559-0024
大阪市住之江区新北島7-1-82
TEL 06-6681-5034
FAX 06-6681-5099
URL https://www.consuss.co.jp
取引店　りそな銀行大阪西区支店
りそな銀行東京中央支店